

将来像 I 魅力と誇りが実感できる「いしかわ」

重点戦略 — 1 交流が盛んな特色ある地域づくり

〔ねらい〕

人口減少が避けられない時代を迎え、本県の活力を維持向上させていくためには、人やものの「交流」を盛んにすることが、大変重要となっています。これまで、能登空港、高速道路網等の整備を進めてきましたが、北陸新幹線の金沢開業により、広域交流の基盤が一段と強固なものとなります。これらのインフラを最大限に活用しながら、本県独自の観光資源に一層の磨きをかけ、国内各地域・海外・県内各地域の交流の拡大を図ります。

1 北陸新幹線の早期実現に取り組みます。また、開業効果を最大限に引き出すための方策を策定し推進します。

- (1) 平成26年度末を目指している金沢までの1日も早い開業と白山総合車両基地以西の早期全線整備を目指した取組みを強化します。
- (2) 新幹線開業は大きな経済効果が想定されています。この開業効果を最大限に引き出すために、官民一体となり、地域の魅力創出、金沢駅からの二次交通アクセスの強化などの様々な取組みを推進します。



施策の概要

2 3大都市圏誘客1000万人構想を推進します。

- (1) 観光素材に磨きをかけ、石川の観光ブランドを確立します。
- (2) おもてなしの心を高めるとともに、観光情報を効果的に発信します。
- (3) 自然、歴史、文化、風景など本県の多彩な特色を活かし、道路自体をも観光資源とする「いしかわ版シーニック・バイウェイ」の整備を進めます。



施策の概要

3 海外誘客3倍増構想を推進します。

- (1) 本県は1県2空港、3大都市圏との近さという地理的な条件に加え、独自の伝統文化・食文化、温泉や雪など外国人観光客が好む要素を備えています。外国人観光客のニーズの的確な把握や交通機関、観光地での外国語表記の充実などの受入体制の整備を行います。
- (2) また、国際的な石川の認知度向上などにより、外国人観光客を3倍に増やします。



施策の概要

4 人・ものの広域な交流のための基盤整備を推進します。

- (1) これまで、広域的な交流基盤の整備に積極的に取り組み、1県2空港の実現や山側環状の全線供用など、交流基盤の骨格を形成してきました。今後とも、国内外との交流の促進を図るため、個々の交流基盤の更なる機能強化を推進します。
- (2) また、新たな長期構想期間内に能登有料道路の無料化、能越自動車道の概成という大きな節目を迎えることとなります。両路線の利便性向上や陸・海・空の交流基盤相互を「結ぶ」ことで相乗効果の発現、周遊性の向上を図る「ダブルラダー結いの道」整備構想を推進します。





1 北陸新幹線の早期実現に取り組みます。また、開業効果を最大限に引き出すための方策を策定し推進します。

(1) 北陸新幹線の金沢までの1日も早い開業と白山総合車両基地以西の早期全線整備を目指します。

① 北陸新幹線沿線各県、とりわけ北陸3県の連携・国等への働きかけを強化します。

【北陸新幹線ルート図】



建設が進む北陸新幹線と金沢駅周辺

(2) 北陸新幹線の開業効果を最大限に引き出すため、官民が連携・協力して必要な対策を講じていきます。

① 開業効果活用実行プランを策定します。

○学識経験者、経済関係団体、交通・観光業界、県、市町等で構成する協議会を設け、地域の魅力創出による交流人口の拡大や二次交通アクセスの強化、産業振興、ストロー現象対策などの諸課題について、官民一体となって取り組む「実行プラン」を策定します。

② 全県横断的な組織を設置し、上記実行プランを推進します。

○実行プランの具体的な推進を官民一体となって取り組みます。

③ 並行在来線の安定的な経営・運行を実現します。

○北陸新幹線の開業に伴いJRから経営分離される並行在来線(JR北陸本線 富山県境～金沢間)については、県民の足として存続させていきます。

○「並行在来線対策協議会」等で、安定的な経営や運行に向けた検討を行います。

④ 新幹線開業の影響を見据え、小松空港の国際化推進と北陸地域のポテンシャルを活かした拠点空港づくりを推進します。

[重点戦略1 ④ (1) ①参照]

県民へのメッセージ

- ◎ 高速大量輸送が可能な新幹線が開業すれば、観光客の増大や新たな事業の創出などが期待され、その経済波及効果は、相当大きなものになると推測されます。
- ◎ 県は、市町、民間団体、事業者等を含めた県民全体と協力しながら本県の魅力を磨き、交流を盛んにしていくよう努めます。



2 3大都市圏誘客1000万人構想を推進します。

(1) 観光素材に磨きをかけ、石川の観光ブランドを確立します。

① 伝統工芸と伝統芸能、地域の食文化を活用します。

- 本県の伝統的工芸品の心と技を、見て・触れて・感じる機会を提供するとともに、販売を促進し、観光振興につなげます。



輪島塗の沈金体験

- 能や邦楽などの伝統芸能に観光客がより多く触れることができるよう、鑑賞機会を充実します。
- 本県ならではの季節感あふれる豊かな食材や「いしる(いしり)」など本県独自の食文化の情報を発信します。

② 温泉地など観光地の活性化と多様な観光資源の活用を図ります。

- 千里浜なぎさドライブウェイなど県内の代表的な景勝地、城址、庭園、山岳など価値のある文化・自然遺産を保全し、観光資源として更なる活用を図ります。
- 温泉情緒のある街並み整備を進めるとともに、健康維持と癒しの温泉づくりなど、個性ある温



山中温泉ゆげ街道

泉地づくりを支援します。

- イベント・コンベンションの誘致拡大と活用を図ります。
 - ◆全国イベント・コンベンションの開催誘致や魅力あるイベントの創出・活用に努めます。
 - ◆大学等との連携による国際会議の誘致、アフターコンベンションの情報発信などに取り組みます。
 - ◆国際会議場の整備について、国に働きかけます。
- 豊かな自然を活かした観光地づくりを進めます。
 - ◆白山国立公園や能登半島国定公園・越前加賀海岸国定公園をはじめとする自然公園の施設の充実を進めます。[重点戦略6 ⑤ (2) ②参照]
- 伝統的な祭りや行事など、様々な地域資源を活用した旅を提案、推進します。

③ 体験交流観光を推進します。

- 工場の視察ツアーなどの「産業観光」の資源を発掘し、誘客に活用します。
 - ◆産業観光データの整備、視察団受け入れ等を促進します。
- 参加体験型の修学旅行などのニーズに対応し、学校・旅行代理店との連携により、伝統工芸体験や郷土の料理体験など、様々なプログラムを企画・提案します。
- 豊かな自然や里山を活用した多彩なツアーメニューを提案できるインストラクターを育成するとともに、受け入れネットワークを拡充してグリーン・ツーリズム、エコ・ツーリズムを推進します。



修学旅行における地引き網体験(羽咋)

④ 美しい石川の景観づくりを推進します。

- 景観総合条例(仮称)^{*1}を制定し、本県独自の景観施策を総合的に推進します。

- いしかわ景観計画^{*2}を策定し、白山眺望など美しい景観の保全と創出を進めます。
- 地域の景観づくりを先導するリーダーの育成や景観に関する顕彰制度を充実します。

(2) おもてなしの心を高めるとともに、観光情報を効果的に発信します。

① おもてなしを充実します。

- 県民や第一線で観光事業に携わる従業員などに啓発活動や研修の実施を通じて、おもてなしのこころを育みます。
- 観光の様々な分野でユニバーサルデザインを推進し、全ての人にやさしい観光地づくりに努めます。
- 県外からの観光客がわかりやすい案内板等の充実に努めます。
- 観光客の満足度の調査やインターネットの活用により広く意見を収集し、その結果を施策に反映させます。

② 観光人材を育成し、地域のボランティア等の活動を支援します。

- プランニングやマネジメント能力を習得するセミナーにより、業界リーダーを育成します。
- 観光人材を育成するための専門大学の誘致や専門学科の設置など観光人材を育成する体制の充実を目指します。
- 観光関連産業の功績者を観光マイスター(マイスターは名人、師匠の意味)として顕彰し、業界のレベルアップを目指します。
- 観光ボランティアガイドの育成と観光地での活躍を促進します。

③ ターゲットを意識して、戦略的に観光情報を発信していきます。

- ターゲット(ファミリー、女性、団塊世代、高齢者)をしぼり効果的に情報発信します。
- 観光情報PR体制の強化やインターネットによる情報提供の充実を進めます。
- 情報発信効果の高い映画やドラマ等の誘致を推進します。
- 石川にゆかりの深い著名人や石川ファンによる観光PR、ほっと石川観光倶楽部の活用など、口コミやリピーターに繋がる取組みを進めます。

④ 広域連携を強化します。

- 北陸や中部各県との共同キャンペーンの展開、北陸全体の旅の提案など、広域的な連携を強化します。



観光地で活躍する観光ボランティアガイド(ひがし茶屋街)

3大都市圏からの入り込み客数(H17) 690万人(県全体の入り込みの34%)

^{*1} 景観総合条例(仮称)とは、全国初の取組みとして景観条例と屋外広告物条例を一本化し、本県独自の理念や施策を幅広く盛り込んだ新しい条例

^{*2} いしかわ景観計画とは、景観総合条例(仮称)に基づいて、街並みや景観を保全すべき地域を指定するとともに地域毎の景観形成の基準などを定めた計画

(3) 観光資源としてのみちづくりを進めます。

① 沿道景観を楽しみながらドライブできる観光ルートとして「いしかわ風景街道(いしかわ版シーニック・バイウェイ※¹)」の整備を進めます。

備(とるば「写真を撮るパーキング」)、標識整備などを実施します。

○自然、歴史、文化、風景など多彩な地域のアイデンティティを活かし、観光交流の拡大を目指す新たなみちづくりである「いしかわ風景街道」の整備を進めます。

② 観光客に的確な情報を提供する道の駅や道路標識の整備を進めます。

○「道の駅」による休憩・情報発信機能の更なる充実を図ります。

○県内外の道路利用者をスムーズに誘導する「いしかわ版みちしるべ※²」の整備を推進します。

◆地域住民と連携を図りながら、安全な通行を確保する道路整備、ビュースポットでの駐車場整備



ビュースポットでの駐車場整備のイメージ(いしかわ風景街道)



道の駅(すず塩田村)



いしかわ版みちしるべ

※1 シーニック・バイウェイとは、「風景の良い道路」の意味で、沿道景観を楽しみながら、自然・歴史・文化などを体験できる施設を巡る観光ルート

※2 いしかわ版みちしるべとは、小規模であるが立ち寄りやすい観光地などへの円滑な誘導を目的とした、全国一律の標識令にとられない独自のデザイン、色、大きさの案内標識

【いしかわ風景街道のルートイメージ】



県民へのメッセージ

◎本県を訪れた方々を温かく迎え、自らが観光レクリエーションを楽しむとともに、県民の財産である本県の観光資源に愛着を深め、美しいまちづくりや観光地の美化運動などにも積極的に参加していくことを期待します。



3 海外誘客3倍増構想を推進します。

(1) 外国人観光客を受け入れる体制を整備します。

- ① 外国人観光客のニーズを把握し、宿泊施設や観光資源の充実・改善に活かします。
 - 国別のアンケートや外国人による観光地診断を実施します。
- ② 各国語対応を充実します。
 - 観光地での案内板等の外国語表記(英語、中国語、韓国語)を進めていきます。
 - ボランティア組織や地元大学と連携し、通訳体制を拡充します。
 - 観光従事者の外国人観光客に対するおもてなしの充実を図ります。



中国での伝統芸能披露



中国旅行代理店県内視察



韓国での観光説明会



韓国での「石川の魅力」パネル展

(2) 石川の認知度向上に努めます。

- ① 効果的な情報発信に取り組みます。
 - 海外の広告媒体等(旅行代理店、現地の新聞や雑誌)と連携し、本県の魅力を発信するとともに、本県へのツアーの拡大に努めます。
 - 各国語対応のパンフレット作成など、海外向けの観光情報を充実します。
 - 映画・ドラマ等のロケ地誘致や石川の映像の提供など、海外のテレビ・映画との連携を進めます。
 - 県観光ホームページ(ほっと石川旅ネット)における英語・中国語・韓国語での情報提供の充実を図ります。
 - 姉妹都市や石川県人会等とのつながりを活用し、石川をアピールします。
- ② 国ごとの特性にあわせたキャンペーンを実施します。
 - ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)^{※1}と連携した取組みを進めます。
 - 県民による草の根の海外誘客運動を展開します。
 - ◆海外進出企業等に本県観光をPRしてもらう活動を展開します。



能登空港での台湾人観光客歓迎



台湾旅行代理店との商談会

県民へのメッセージ

◎海外から訪れた方々を温かく迎えるとともに、海外に出かけた際にも、フェイス・トゥ・フェイスの交流により、海外の様々な地域の人々との結びつきをを広げ相互の理解を深め、石川県を積極的にPRすることを期待しています。

外国人宿泊客数 ここ3年で2倍以上の増加[約5万人(H14)→約11万人(H17)]

※1 VJCとは中国、韓国、台湾、米国、香港、英国、ドイツ、フランス、オーストラリア、カナダ、タイ、シンガポールの12カ国を訪日促進の重点市場と設定し、2010年までに訪日外国人旅行者を1000万人に倍増しようとする国の海外誘客戦略



4 人・ものの広域な交流のための基盤整備を推進します。

(1) 国内外との交流の促進を図るため、交流基盤の更なる機能強化を推進します。

① 小松空港の国際化推進と北陸地域のポテンシャルを活かした拠点空港づくりを推進します。

- 国内・国際旅客便の維持・拡充に取り組みます。
 - ◆羽田便は、一定の便数が確保され、北陸新幹線との適度な競争がなされるよう、所要時間の短縮などの環境整備に取り組みます。また、羽田便以外の既存路線は、運航ダイヤ改善や増便などにより、利便性向上につながるよう利用促進に取り組みます。
 - ◆県民のニーズを汲み取りながら、新たな国内路線展開に取り組みます。
 - ◆既存国際旅客路線(ソウル便、上海便)の増便や運航ダイヤ改善により、国際ハブ空港へのアクセス向上に努めます。
 - ◆台湾などアジア近隣諸国との新規路線の開設を目指し、チャーター便の誘致などにより、定期便化に必要な安定的な需要の確保に取り組むと

もに、ヨーロッパなどの長距離チャーター便の誘致に努めます。

○国際航空貨物の集積による国際物流基地化を推進します。

- ◆小松空港IC(仮称)の整備、東海北陸自動車道の全線供用により、3大都市圏とのアクセス手段が更に向上することから、小松空港の地理的優位性をセールスポイントに、日本海側における国際航空貨物の拠点空港を目指して、フォワードの誘致に取り組みます。
- ◆空港及び空港周辺地域における国際航空貨物の保管、荷捌き、流通加工、在庫管理などのサービス提供体制の高度化を図り、空港機能の付加価値を高めます。
- ◆既存国際貨物路線(カーゴルックス便)の維持・強化を図るほか、小松空港の地理的優位性や空港機能を活かしつつ、アジア近隣諸国等との新規貨物路線の就航促進に努めます。



小松空港



能登空港

② 能登空港の機能拡充と利活用の推進による地域拠点空港づくりを推進します。

- 空港のにぎわい創出と交流人口拡大を図り、能登地域の振興につなげます。
 - ◆空港及びその周辺において、能登地域の特性を活かした各種イベントの開催などを推進します。
- 旅客便の維持・拡充に取り組みます。
 - ◆羽田空港第4滑走路の供用開始(2010年予定)に向け、引き続き安定的な需要を確保しつつ、羽田便の増便や運航ダイヤの改善を航空会社等関係機関に強く要望していきます。
 - ◆需要動向の分析などを進め、新たな路線の開拓に努めます。
 - ◆アジア近隣諸国からの国際チャーター便を誘致するとともに、受入体制の充実を図ります。

- 能越自動車道、東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道、小松白川連絡道路の整備を促進します。[重点戦略1 ④ (2) ① 参照]

④ 環日本海のゲートウェイとして金沢港の整備を進め、人・ものの交流の拡大を図ります。

- 地域産業の国際競争力向上を図るため、大水深岸壁の整備を促進します。
- 埠頭の再編に取り組み、副都心^{※1}と一体となったにぎわいの創出を図ります。

⑤ 能登地域の交流拠点港として七尾港の港湾施設の充実を図ります。

- 能登地域の流通拠点基地としての充実を図るため、大水深岸壁の整備を促進します。
- 海からの交流人口の拡大を図るため、旅客船岸壁の整備を進めます。

③ 高規格幹線道路等の整備を進め3大都市圏との交流の拡大を図ります。



金沢港大水深岸壁(完成予想図)



七尾港大水深岸壁(完成予想図)

※1 副都心(金沢西部副都心)とは、金沢駅西地域(金沢市のJR北陸線より海側の地域)のうち、国道8号から金沢港間の50m道路周辺において、現在基盤整備を進めている県庁舎を核としたエリアを指す

(2) 陸・海・空の交流基盤相互を結び、相乗効果の発現や周遊性の向上を図る「ダブルラダー結いの道」整備構想を推進します。

① 石川と3大都市圏を近づける「結いの道」

- 3大都市圏を始めとした全国各地域との人・ものの交流の拡大を図るため、能越自動車道の概成を目指すなど高規格幹線道路の整備を促進します。
 - ◆能越自動車道、東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道等

② 能登・金沢・加賀をつなぐ「結いの道」

- 南北に長い県土の更なる一体化を図るため、無料化を迎える能登有料道路の利便性の向上や能登、金沢、加賀をつなぐ幹線道路の整備を進めます。
 - ◆珠洲道路、能登有料道路、国道249号、国道159号、金沢外環状道路(山側環状)、加賀産業開発道路、国道8号等

③ 企業と世界をつなぐ「結いの道」

- 物流の円滑化を図るため、工業団地等の生産拠

点から高速道路IC(インターチェンジ)、港湾、空港等の物流結節点へのアクセスを向上する幹線道路の整備を推進します。

- ◆河北縦断道路、金沢外環状道路(海側環状)、南加賀道路等

④ 隣県との交流を広げる「結いの道」

- 富山、岐阜、福井との交流の拡大、広域観光圏の形成、災害時等での連携強化を図るため、県境をまたぐ幹線道路の整備を推進します。
 - ◆中部縦貫自動車道連絡道路、金沢福光連絡道路、小松白川連絡道路等

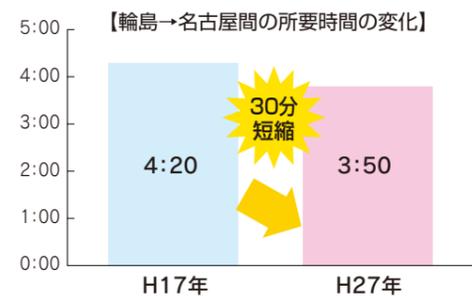
⑤ 陸・海・空の連携を強める「結いの道」

- 高速道路、港湾、空港などの交流基盤の連携強化を図るため、追加IC(インターチェンジ)やアクセス道路の整備を進めます。
 - ◆七尾東IC(仮称)、白山IC(仮称)、小松空港IC(仮称)、高松インター通り線、倉部金沢線等

【期待される効果(例)】

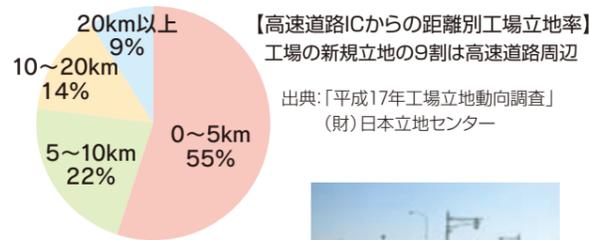
人の交流 3大都市圏への所要時間短縮

能越自動車道等の高規格幹線道路の整備により、3大都市圏との連携が強化され、観光、産業など様々な分野での交流拡大が期待されます。例)輪島と名古屋間の移動に係る所要時間は、能越自動車道、東海北陸自動車道の整備により、約30分短縮されます。



ものの交流 企業立地の促進

工場の新規立地は、高速道路ICへのアクセス30分圏域(20km圏域)に集中しています。追加ICとアクセス道路の整備により、産業の活性化が促進されます。



【北陸自動車道(徳光スマートIC)】



【「ダブルラダー結いの道」整備構想】



県民へのメッセージ

◎1県2空港が整備されるとともに、大水深岸壁、高速道路、幹線道路網などの基盤が整いつつありますが、今後、安定した需要が見込めないと既存路線の維持・強化や新規路線の開拓は見込まれません。このため、県、市町、企業、県民の一体となった安定的な需要の確保が期待されます。